

# 今、ふたりは青春の新婚です

～介護を二人でのりこえて～



～掛川市在住～  
**〈夫〉** 萩田清雄さん \* **〈妻〉** 萩田さくさん  
 ◇結婚年数：56年  
 ◇家族構成：夫婦(70～80代)  
 ◇結婚を決意させた事  
 〈夫〉知人に勧められた 〈妻〉父親に勧められた  
 ◇趣味  
 〈夫〉編み物、ししゅう 絵画  
 〈妻〉花の手入れ 編み物



**二人の出会いが結婚の日**  
 私とおじいさんが、はじめて顔をあわせたのは婚礼の日でした。私は、親から「先方は素敵な人だから、敷居をまたいだら、灰になるまで一緒にいるんだよ」と言われてこの家に嫁ぎました。今は、恋愛やお見合いで当人たちの意思によって結婚していますが、私たちの時代では考えられないことです。おじいさんは長い間、病院で理髪店をしていました。今でいうボランティアでしようか、おじいさんは福祉活動にも力を入れていました。そんなおじいさんを見て、私は親のいったとおり「穏やかでやさしい人だなあ」と思いました。

**おじいさんが倒れた**  
 おじいさんが六年前に倒れたのでした。医師から「たとえ命は助かっても植人物人間になる」と言われました。確かに、生死をさまよい目がさめた時には何にもわからない状態でした。でも私はおじいさんを寝たきり老人にしたくないと思ひ、その一心で介護をしました。

病院での付き添いは七ヶ月続きました。最低限、床づれだけは作るまいと、思い、リハビリを兼ねてベッドの上で体を右へ左へと動かすようにしました。年を取った私が介護をすることは、大変なことでしたが、自分で動くようにしているおじいさんを見て、「おじいさんの方がもっと頑張っているんだな」と思いました。

おじいさんは、右半身不随になったけれど、リハビリのおかげで車イスで生活できるまでに回復しました。口はきけません、私が言うことはすべて理解できるように、「オー、オー」と意

思を伝えます。

ただ、退院した当初困ったことは、紙おむつの費用のことでした。病院は時間がくると換えてくれますが、家庭で同じようにしていると経済的にも負担がかかり、その当時は月三万円にもなりました。

そこで、私はしびんでおしつことができるようにと練習を繰り返しました。失敗の連続でしたが、今では「オー、オー」と教えるまでになりました。

おじいさんは、夜中に私を四回起こします。用足しが三回と凍傷で病んだ左足をさするためです。その時、おじいさんは、必ず「オーオー(ありがとう)」と言ってくれます。

私は、「おじいさんは病人じゃないんだ、一人前の人なんだ」、介護をすることは特別なことでも、無理なことでもないんだ」と思っています。

自分の心の持ちようでどうにでもなるものです。

**もうすぐ春がくる！**  
 いままで、私自身も心不全で命を失いかけたこともあり。集中豪雨で首まで水に浸かり、何もかも失ってしまったこともあり。

でも、どんな困難もおじいさんと励ましあいながら乗り越えてきました。今、こうしてとても穏やかな気持ちで新婚のように二人で手をとりあっています。

ヘルパーさんにも月に二回訪れてくれ、また、年寄りの世話をしている人たちで作った「介護の会」にも加えていただきました。地域の人たちに支えられ、ありがたく思います。

もうすぐ春がきます。そしたら、又二人でお散歩に出かけましょうね。おじいさん！

# 人生のパートナーは？

～カップルセミナーを企画して～

浜名湖のホテルにて



## 平成6年度カップルセミナー日程表

(1日目) 13:00～14:00	(であいのつどい)
14:00～15:00	(ビデオ観賞)「幸福」 ☆定年退職後の二人の暮らしを考える (共有できる趣味をみつけよう)
15:00～17:00	自然の草花でつくれる「おしなな教室」 (おしゃべりとはなしあい)
17:00～19:00	これがあるから生活と人生が楽しい 二人で創るライフワークテーマさがし 「ディナータイム」
19:00～21:00	
(2日目) 7:30～9:00	朝食 (ヘルシーライフのおはなし)
9:00～10:30	(おしゃべりとはなしあい①)
10:30～12:00	私たちのライフプランづくり ★ふたりの豊かな未来をトータルに描こう
12:00～13:00	昼食
13:00～14:30	(おしゃべりとはなしあい②) 私たちのライフプランづくり 新しいふたりのスタートのプランを整理しよう

～全矢崎労働組合 鷹津支部執行委員長 勤務先 湖西市～  
夏目博司さん



**なぜ今さら夫婦なの？**  
 「なぜ今さら夫婦セミナーなの？」  
 「二人で出掛けることなど親類の冠婚葬祭くらいしかないし」  
 「会社の人の中に夫婦で出ていくなんて恥ずかしくて」  
 これが、五十歳前後の夫婦対象にセミナーを企画した時の最初の反応でした。以前から組合では、労働条件の改善とともに生涯生活の総合福祉に主眼をおいてきました。昭和六十二年から、定年退職を控えた男性組合員向けのライフデザインスクールを開催してきました。しかし、参加者のアンケートから次のような感想が寄せられました。  
 「我々の年代は仕事人間が多く、趣味や地域でのネットワークが持たない」「定年後も心豊かに暮らすためにはもっと家庭に目を向けねば」  
 「セミナーには、妻と二人で参加したかった」  
 そこで、今後の人生設計を夫婦で一緒に考えてもらおうと考え、このセミナーを企画したわけです。

ところが、組合員の反応は意外にも消極的だったのです。  
**二人でやれることがみつかった**  
 一日目はつどいのゲームや押し花教室で、楽しくなるような雰囲気作りにつとめました。よそゆきの服を着て、何かきこえなかったカップルでしたが、次第に笑い声が聞こえるようになっていきました。

終了後、おふるの中では「今まで忙しさに追われて何となく過ごしてきたけど、今日は妻と私の趣味や考え方が違うことにはじめて気が付いた」「二人でやれることも見つかった」「二人よ」という声が聞かれました。次の日のライフプラン作りの時には、和やか

な雰囲気のもとで、肩を寄せ合いながら相談が始まりました。

このように、じつくりと話し合うのは、はじめてのことでしたが、次のような活発なプランが発表されました。「二人でお互いの生まれ故郷を旅したい」

「趣味の空手や手芸を、ボランティアで近所の子ども達に教えたい」  
 セミナー終了後、「同窓会みたい懐かしい感じがした」  
 「来年もまた、開催して、ぜひ多くの人達に参加してもらいたい」という声も出た程です。また、この後、交流を深めている人達もいるようです。

このように、塾年夫婦が一緒に楽しめる仲間の輪が広がることを願っています。

**各年代ごとにセミナーをやってほしい**  
 多くの人が夫婦での参加に満足してくれて安心しました。

しかし、一部の男性から「五十歳ではもう遅い。各年代ごとのセミナーが必要」という意見もありました。

そこで、昨年は託児つきの三十代のセミナーも開催してみました。子育ての問題を夫婦で考える講演会の後、家族で遊園地や動物園で遊ぶという企画です。こちらは、リラックスムードで、同じ夫婦という関係でも世代間で異なることを痛感しました。

企業側も、参加者から好評を得たことに関心を持ってくれました。今後は、組合側と提携して退職後の生活を含めたセミナーも考えています。今後の課題は、まだ参加していない組合員への呼び掛けです。私も、この次はぜひ、妻と一緒に参加するつもりです。

## 専門家からのご意見

企業倫理とは、そこに働く人の幸せを祈ること  
坂本 光司さん



プロフィール  
現職/常葉学園浜松大学 経営情報学部 助教授  
専門/地域経済論・中小企業論  
主な著書/静岡県74市町村の経済成長力(静岡新聞社編著)、図説地域経済論(静岡新聞社)

**個性を生かしている企業はわずか**  
 この経済変革期に、個性を重要視しなければならぬと言われて数年がたちます。しかし、実際に個性を基準に採用され、もしくは活用されているかというと、この静岡という地域においては立ち遅れているのが現状です。

経済構造の変化において、個性は人材起用の必須科目です。それは企業も十分わかっています。その観点から登用している企業も多いためです。

困った事に、そういった逸材を登用しながら、実際に活かせる機能が、企業においてまだ整っていないのです。

**静岡県は製品生産する産業地域**  
 これはひとえに、静岡県が全国的に製品生産県であり、人を重視するソフトウェアな部分より、ハードなモノ意識、製品の生産効率などを重視するような経営思想が根強いからです。

その結果、人間性を大切にしない個性的人材登用が円滑に行われなかったのです。

**人間性重視の個性的な企業の出現**  
 そんな中でも、個性的な企業も増えてきています。残業をさせなかったり、

午後三時に必ず三十分間のお茶の時間をもうけ、企業内でのコミュニケーションを円滑にし、信頼関係を培っている企業も出てきています。

**三十分間の談話タイムを設けてから、職場での問題のみならず、家庭の問題まで話し合えるようになり、従業員間で、家族間で、たいへん強い信頼関係がもてるようになったというのです。**

日本経済最盛期に企業は、営利主義に走りまわりました。残業させても生産効率を上げようと、従業員の家族生活を奪ってしまった訳です。そのために、家族の働き手である、父親のハートまで犯されてしまい、彼らは、酒場にはけ口を求めていきました。そのため、家庭から夫は、父親は、消えてしまったのです。

**そこに働く人の幸せを祈ること**  
 清水にある会社なのですが、在籍二十五周年の社員には、メモリアル・リフレッシュ休暇を設けているところがあります。二十五日の有給に二を掛けた日数がそれにあたります。

この二を掛けるというのが、ミソなんです。これはパートナーである奥様の分なのです。つまり、こうして二十五年間従事し、企業に貢献してもらったのも、その妻がしっかりと彼を支えてくれたことに他ならないからです。

従業員の人間的な幸せを存続させることが、従業員の生活的・精神的な面を安定させ、結果として企業効率を上げていることを、忘れていない企業が多いのです。こうしたことに気づき、実践している企業に共通しているのは、しっかりと企業哲学と歴史であり、その企業の息の長さをもたらしていることが多いのです。

# 編集員がすすめる ふたりで読んでみたい本



## いくつになっても自分が 主人公でいたいあなたに

「結婚する貴女のために」  
福島瑞穂監修、越山昌美著  
実業の日本社  
愛情は植物のように水をやり忘れ  
るとすぐに枯れてしまう…？  
だからこそ、大事にする努力が  
必要。幸せになるためにはちょっ  
ぴりの知恵が必要。そのための知  
恵を身につけてくれる本です。



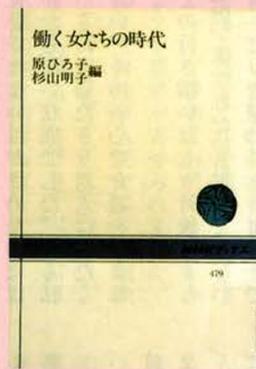
## 夫婦関係にとまどいを感じたら

『夫と妻がもっとわかりあうために』  
円より子著 大和書房  
人生80年＝結婚50年の時代。最  
近「妻の気持ちが分からない」とい  
う中高年男性の相談が増えているそ  
うです。夫婦2人で一緒にいることが幸  
せと思える関係の作り方を「ニコニコ  
離婚講座」を主催する著者が淡々と  
綴っています。



## 愛情ある結婚を続けるために

「結婚における自己実現への道」  
ミリエル・ジェイムズ著  
社会思想社  
アメリカの夫婦も、食べ物の違  
い、習慣の違いなどから、心の行  
き違いがはじまり、最終的には価  
値観の違いと壁ができてしまうの  
でしょうか。この本では、二人で  
一緒に向き合い、その原因を探り、  
より深い愛情と信頼を育てていく  
方法を教えてくれます。



## 女性と仕事をとりまく現状 をアプローチ

『働く女たちの時代』  
原ひろ子 杉山明子編  
NHKブックス  
時代の流れは、女性の活躍の場  
を家庭の中だけでなく社会へと拡  
大させました。でも、母親が家庭  
と仕事を両立していく環境は十分  
だろうか？女性は能力や独創性を  
存分に発揮しているだろうか？と  
多角的に問うています。



## 素敵な「女と男」になるために

「賢い女はいい結婚ができる」  
沖藤典子著 大和出版  
人生をどう生きようとしている  
のか、夫婦のパートナーシップを  
どう作りあげようとしているの  
か、お互いを大切にしようとい  
うのはどういうことか、夫婦別姓問  
題を切り口として新しい時代の結  
婚、夫婦のありようを考えさせて  
くれます。



## 日常生活の悩みにお答えします！

「現代家族問題シリーズ I」  
現代の結婚と夫婦関係  
神原文子著 培風館  
日常生活において結婚問題・夫  
婦関係、また自らの生き方に悩む  
人が多い現在、著者の生活者とし  
ての経験を踏まえ現代家族の在り  
方や今後の方向などを広く分かり  
やすく解説しています。



『未来の静岡県をみつめて』  
―若者たちは今―  
二十一世紀まで、あと五年。  
女性の社会参画や社会全体の就  
労構造の変化に伴い、家族・家庭  
に関する意識はどのように変化し  
ていくのでしょうか。  
静岡県では、来るべき高齢化社  
会や少子化現象に対応する施策を  
展開するための基礎資料として、  
今年度、次代を担う若い世代の実  
態調査を行いました。  
この調査結果について関心のある  
方は、女性総合センターにお問  
い合わせください。

次代を担う若い  
世代の実態は…

ねっとわあく No.25、No.26の編集を終えて…

今までの「ねっとわあく」とはひと味違えてリフレッシュしました。取材先選考に夕方遅くまで続

いた会議、何度も書き直しをした原稿づくりなど今ではいい思い出になっています。



伊賀紀子さん  
浜松市

シングルで自己実現するの魅力的だし、男性と女性がパートナーとして仕事をもち、子どもを温かく育てていく…そんな生き方も心豊か。ただ、いつの世も変わらず大切なものは、自分や他人への愛かも知れません。どんな状況の中でも自分を精一杯に生かし、他人の痛みや希望をやわらかく受けとめてゆけたら…。編集で出逢った皆さんの言葉から、そんなふうに見えるようになりたい。

◆この一年は、自分の体調の悪さと折り合いをつけながらでしたので、取材でお世話になった方々の一言一言が余計に心にしみ通りました。

◆結婚して十七年、仕事(バラ栽培)と家事に、子育てに追われ、いつの間にか社会から埋没してしまいました。ねっとわあく編集員となって久しぶりに広い世間を見聞し、驚きと感動の連続でした。「平成子育て談義」も「夫婦談義」も、自分自身を振りかえるよいキッカケとなりました。そして、「男女共同参画社会」の必要性が求められている中、実際は自分の家庭、地域という身近なことから考えてこそ、実現されるのだと思ひ当たりました。



小沢ふさ子さん  
掛川市

◆「もうすぐ、私たちの子育てもおわりなのね…」つぶやく私の傍らで、夫がうなずいている。編集のお仕事は、息子の受験という大変な時期と重なりましたが、私たち家族にとって、「ねっとわあく」は活性剤のような役割を果たしてくれました。取材から帰ってきた夕げの食卓で、その日のことが話題になります。これ



金津万美さん  
浜松市

◆「大義名分にくだわって、くよくよと悩んだ末に何もしない。そんな自分が悔しい…」演歌の一節みたくに、日本人は閉じこもって、抱え込んでしまふ傾向にありました。

◆「もうすぐ、私たちの子育てもおわりなのね…」つぶやく私の傍らで、夫がうなずいている。編集のお仕事は、息子の受験という大変な時期と重なりましたが、私たち家族にとって、「ねっとわあく」は活性剤のような役割を果たしてくれました。取材から帰ってきた夕げの食卓で、その日のことが話題になります。これ

◆「もうすぐ、私たちの子育てもおわりなのね…」つぶやく私の傍らで、夫がうなずいている。編集のお仕事は、息子の受験という大変な時期と重なりましたが、私たち家族にとって、「ねっとわあく」は活性剤のような役割を果たしてくれました。取材から帰ってきた夕げの食卓で、その日のことが話題になります。これ



君塚礼子さん  
富士宮市

◆「行き詰まった時、寝たほうがいいわ」夜更けに、編集員の仲間が心配して、電話で励ましてくれました。ふっと肩から力が抜け、もう一度がんばってみようという気持ちになりました。ワープロのキーボードをたたきながら、あーでもない、こーでもない、と、他人が読んでわかる文章を書くというの、難しいものです。いままでの文章が、なんてひどいよがりだったかと痛感させられました。自分で書いたものを活字にしたいという、私の夢はまだまだ実現しそくないですが、夢はずっともち続けていきたいと思っています。



杉浦美津子さん  
浜松市

◆「何度か原稿の書き直しをしました。書けば書くほど、文章はどんどん、ぎこちなくなっていくような気がしました。」

ねっとわあく No.26

発行 平成7年3月  
編集 静岡県女性総合センター  
住所 〒422 静岡市馬淵1丁目17-1  
電話番号 ☎054-250-8107

表紙デザイン 静岡県デザインセンター 小杉思主世

活かせる情報集めてます!

こんなこと知っている静岡県の生活が楽しめる、イキイキ暮らせるという情報がありましたら、是非、女性総合センター『ねっとわあく編集部』まで、お知らせください。あなたの生きた情報をお待ちしています。また平成7年度の『ねっとわあく』編集員も平成7年4月1日～22日まで募集しております。あなたのセンスを『ねっとわあく』で生かしてみませんか!



この「ねっとわあく」は再生紙を使用しています。